

## 飛騨農林事務所の普及活動状況（飛騨版）

令和3年5月25日現在

### 今月の重点活動

#### ■スナップエンドウ 現地研修会で情報交換

5月6日、丹生川蔬菜出荷組合スナップ・モロッコ班が春作のスナップエンドウ（以下、春作スナップ）の現地研修会を開催、生産者約30名が出席した。ハウス栽培、露地栽培の生産者各1名の現地ほ場を見学し、生育状況や栽培管理方法について情報交換が行われた。

春作スナップはまもなく収穫開始であり、農業普及課からはこれからの肥培管理や病虫害防除について説明した。生産者からは水管理や管理作業（脇芽かきや摘花）、追肥の間隔など、様々な質問が寄せられ活発な意見交換が行われた。

丹生川地区では5月15日ころから出荷開始予定。収穫が進むにつれて成り疲れが発生するほか、今年は例年より早い梅雨入りのため、病気の発生が例年より早くなると予想される。今後はこまめに巡回を行い、管理方法や病虫害防除について適切な支援を行っていく。



【みんなで生育を確認】

### ぎふ農業・農村を支える人材育成

#### ■水稲 青空教室を開催

例年6月下旬～7月中旬にかけて、飛騨地域各地で水稲青空教室が開催され、栽培技術の向上が図られているが、今年の一部地域で田植え前の開催希望があり、4月末～5月上旬にかけて普及指導員とJA営農指導員が講師として指導を行った。

今回は田植え前に開催するため、これまでと指導内容を変えて、水田除草剤の効果的な使い方や、栽培暦にある個々の作業が具体的にどのように稲の生長に関わるかを掘り下げて分かりやすく解説した。

参加者からは積極的な質問があり、終了後は「いい勉強になった」との声が多数あった。農業普及課は引き続き関係団体と協力して、高品質な飛騨産米生産の支援を行っていく。



【真剣に聞き入る参加者】

#### ■担い手 清見荘川トマト部会で定植研修会を実施

5月13日、清見荘川トマト部会の定植研修会が開催された。清見地域では5月中旬頃から定植が始まるため、普及指導員、JA営農指導員から育苗後半から定植後までの施肥方法など、栽培管理のポイントを説明した。また、昨年度は病害の多い年であったことから、今年度の病害対策についても研修を行った。

農業普及課では、本年度も営農指導員と連携し、清見荘川地域の全生産者について定期的に巡回を行い、生産者の単収向上を目指して栽培管理等の支援を行っていく。



【本年度作の定植に向けて】

## 安いで身近な「ぎふの食」づくり

### ■水稲 優良種子の安定生産を目指して

5月13日、丹生川採種生産組合では、田植え間近となり、組合役員やJA等関係機関とともに苗代調査を行った。当組合では、岐阜県内のみで栽培されている「たかやまもち」「ひだほまれ」をはじめ、「コシヒカリ」「ひとめぼれ」「はなの舞い」の5品種の水稲種子生産を行っており、重要な役割を担っている。

当日は、すべての育苗ハウスを巡回し、苗の生育、病害等諸障害の有無、管理状況を確認した結果、いずれの農家も問題なく田植えが実施できる状況であった。

今後も農業普及課では、定期的な管理指導や病虫害の発生状況等の情報提供を行い、優良種子の安定生産に向け支援を行っていく。



【苗の状態を確認する関係者】

## ぎふ農畜水産物のブランド展開

### ■果樹 JAひだ果実出荷組合協議会役員会にて情報提供

久々野町果実出荷組合では、第2回役員会を5月14日に開催した。

役員会では4月～5月上旬にかけて発生した霜害について、現時点での被害状況を共有した。加えて、役員が被害状況を把握するために実施する園地巡回や組合員に周知すべき事後対策について意見が交わされた。農業普及課からは、モモの収穫予想日の提示、果樹の生育状況、おんどり設置により得られた最低気温のデータや今後の気象情報について情報提供を行った。収穫予想日は、長野県で用いられている満開後の平均気温を変数とした収穫予測回帰式を利用し、前年よりも4日程度遅い8月7日と予想した。

今後も当課は、果樹の安定生産に向けた技術普及や販売PRにおいて、関係機関との連携を通じた支援を継続する。



【役員会の様子】

### ■夏秋トマト 土壌溶液の定期的採取で収量性の向上を目指す

農業普及課では、丹生川野菜出荷組合トマト部会の栽培技術支援の一環として、飛騨農協営農指導員と連携して、各生産者の栽培圃場の土壌溶液の定期的分析を昨年度に引き続いて実施する。単収や品質の向上に向けて、同部会ではこの取り組みを積極的に進めているため、取り組む生産者は増加している。

4月下旬から5月中旬にわたり各支部（計10支部）ごとに開催される研修会において、より多くの生産者が分析に取り組めるよう、土壌溶液採取器具の設置方法実演や採取上の留意点の説明等を行った。



【溶液採取器具の設置実演】

分析の開始時期は6月10日前後とし、栽培の終盤となる9月末まで毎週分析を行う予定である。

## ■夏秋トマト トマト茎えそ病を媒介するアザミウマ対策支援

平成 29 年に、高山市内の一部でトマト茎えそ病の発生が岐阜県内で初めて確認され、令和 2 年も被害が続いている状況である。

農業普及課では、茎えそ病を媒介するミカンキイロアザミウマの防除対策を農業経営課、農業技術センターと連携して取り組み、生産者による対策の実践を支援した。

その結果、令和 3 年は基本的な雑草管理に加え、本ほ周辺の風上側への防風ネットの設置、育苗ハウスを囲うように高さ 1 m 以上の衝立（侵入防止）の設置、0.4mm 目合いネットによる育苗ハウスの被覆、薬剤耐性検定に基づいたアザミウマ防除が実施されている。



【青色粘着板を利用したモニタリングの様子】

## 地域資源を活かした農村づくり

### ■農産物直売施設 指定管理者の選定を支援

飛騨市は、令和 4 年度に「道の駅アルプ飛騨古川」内に農産物直売施設を新設する予定で、指定管理者の募集を行った。新設される直売施設は、飛騨市の恵まれた自然で育まれた農産物の販売拠点として、市内の農業生産者の所得向上と飛騨市の農産物の魅力向上を図ることを目的としており、指定管理者には道の駅内および近隣施設との連携や農業に限らず市内事業者との連携が求められている。

農業普及課では、選定委員として 5 月 18 日に開催された指定管理者選定委員会に参加し、応募者の事業計画が市の掲げるコンセプトを実現できるか厳正に審査した。今後は選定された事業者が新設される直売施設を拠点に農業だけではなく地域振興の一翼を担えるよう支援していく。



【建設予定地での説明会】